

神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第1回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を次のように開催した。

名称	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第1回学校運営協議会
開催日時	令和4年5月24日(火) 9:30~11:00
開催場所	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 ふれあいルーム
出席者	学校運営協議会委員8名 学校事務局8名
次回予定日	令和4年10月25日(火) 9:30~12:00
問合せ先	横浜ひなたやま支援学校 副校長 大磯美保 電話 045-300-5611 FAX 045-303-2330
議題	令和4年度 学校運営協議会 第1回会議についての確認 ・設置部会と今後の進め方 ・年間計画 学校評価部会 ・令和4年度学校教育計画について ・令和4年度不祥事ゼロプログラムについて 切れ目ない支援部会 ・共生社会の実現に向けた取組について
審議(会議)経過	【学校運営協議会】 (1) 会長挨拶 所属している法人には、知的障害のある子どもの入所施設が2つ、児童養護施設が2つある。困難がある中で、児童生徒が学んでいる姿を見ているので、自分自身、教育の現状には関心を持ち続けているつもりだ。 新型コロナウイルス感染症については、相変わらず警戒はしなければならない現状だと思う。所属の法人でも、デルタ株の時に比べ、オミクロン株では、複数のクラスターの発生があった。今後も緊張感をもって備えていかないといけない。引き続き、学校でも対応をお願いしたい。 運営協議会の会長として、この会がうまく機能するようになりたい。本日の会議でも、皆さんに活発にご意見を出していただけたらと考えているのでよろしくをお願いしたい。 (2) 副会長挨拶 本校のコロナ対策は、マスクの着用、手洗い、換気、消毒など、基本的なことを確実に実施している。マスクの着用については、生徒の意識は高い。厚生労働省より新たな通知が出たが、今後教育委員会からの通知を待って、学校として対応していきたい。 本校は今年度で10周年を迎えた。地域の方々のご協力に感謝している。記念行事も来年度に考えている。

本日は2つの部会があるが、活発なご意見をいただけたらと思っています。

(3) 自己紹介

協議委員自己紹介

事務局自己紹介

(4) 第1回会議についての確認

■設置部会と今後の進め方

新規の方が2名入られ、今年度も9名の委員の皆さんにご協力いただく。

部会は3つあり、本日は、学校評価部会と切れ目ない支援部会を実施する。地域防災部会は、今後、学校運営協議会で説明をしていただく。

■年間計画

今年度も3回の運営協議会を予定している。第2回の開催は10月下旬、第3回目は2月下旬を予定。

感染症対策から短時間の会議となっているが、次回は状況にもよるが、生徒の教育活動の参観も考えている。

【意見】

- ・特になし。

【学校評価部会】

■学校教育計画（令和2年度～令和5年度）

令和2年度から5年度まで4年間の計画を作成している。今年度は3年目となる。県よりミッションを受けて2つの学校教育目標を掲げ、それをもとに4年間の目標を立て、1年ごとの目標と取組の内容を設定している。

各グループリーダーよりパワーポイントを使用して、本年度の目標と取組を説明した。

(教務G)

来年度の記念事業に向け準備をしている。

個別教育計画は新様式を使用。評価についてさらなる改善をする。また、SSEライフスキルチェックシートを活用する。

(総務管理G)

地域との協働の体験的な防災教育として、避難訓練を実施。

地域防災拠点、消防署、区役所等と連携していく。評価はアンケートを取り、振り返りを行う。

職員研修はHUGを予定。

(教育推進G)

政治参加教育→知識の詰め込みのみで終わらせない。自己選択、自己決定の力を身につけさせたい。

研修研究→研修を受けた後、何に気づいたか、どのように授業に活かすか、生徒へフィードバックする。

(連携支援G)

支援体制、情報の発信、支援者の共通の理解の見直しや就労準備性ピラミッド、実習日誌の改訂を考えている。

フードユニット(パン販売)の販売活動を広げる。販売後にアンケートを実施して、生徒の自己肯定感の向上を図る。

インクルーシブ教育実践推進校への支援に向けた冊子を他校と連携して作成する。

<司会>

学校の方から今年度の取組について報告があった。これについて、自由に発言をお願いしたい。

【意見】

<委員>

「働くことの意味」をしっかりとわかっていることがひとつの課題。昨日より2人の実習生を受け入れている。喜び、自尊心、自己肯定が持てないまま会社に来ると、来る理由がなくなってしまうのは残念。

働くうえで大切なことがある。昨日、善光寺に行った社員がいる。新幹線に乗ることがとても楽しみで、稼ぐために働く。そして旅行に行く。稼ぐことが必要とわかっている。

実習生は、先輩と同じことができないことが多い。技術的にできないことはわかるが「自分ではできない」と考える人が多い。

役割を持たせる取り組みをしている。仕事以外で、できる範囲で何かの役割を与えたい。評価として「よくできたね。」「また、頼むよ。」というように感謝や期待を感じさせる言葉かけをしている。自己肯定感につながる。重要なことだと考える。

<委員>

ライフスキルチェックシートは、ゴールがイメージできるつくりとなっている。チェックシートの項目としては「キャリアをつくり続けていく力」という観点や自己有用感の維持が大事だと考える。同じように観点のポイントについては研究室でも取組んでおり、必要に応じてこちらの学校にも情報発信ができる。

<司会>

チェックシートの各項目は、WHOが1994年に発表した『ライフスキル教育プログラム』と繋がっているものだと思う。1994年というのは、日本ではその翌年の1995年に阪神・淡路大震災があったり、地下鉄サリン事件があったりしたように、社会や時代が世界中で大きく変わっていった時期にあたる。そうした複雑で難しい時代や社会を、子どもがきちんと生き延びていける

ようにという発想がよくわかる、優れたものになっている。

ただ、生き延びると言っても、たった一人生き延びればよいわけではない。チェックシートにも、共感性という言葉があるが、他者への共感性と、それから批判的思考などを通じて身に付ける道徳性をもって、他者と共に生きていく。こうしたメッセージの入った『ライフスキル教育プログラム』であり、SSEもそれに繋がっているわけだから、ぜひ、これからの時代を考えながら、精一杯やっていただきたい。

<委員>

学校に期待すること、30年前は「学校はこうあるべき」とあったが、今は、「学校の3年間でどこまで期待するのか」と考える。

計画相談事業も行っていて、100件以上のケースを見ている。学校卒業の方が引きこもりで働けなくなった。8050問題もある。仕事には行かない。外に出なくてもネットで買える。生活はできる。障害者年金で生活もできてしまう。

以前は「学校や施設において、来たらなんとかしてあげるよ」と言っていたが、学校や施設に行けない人でも、社会で何らかの形で参加できる人もいる。どこを見て基準にしていけばいいのか。個を支えていくのも大変だと感じている。

学校への質問で、学校に通えていない生徒はどのくらいいるのか？対応の具体的な方法は？

➡ 各学年に複数いるが、対応の仕方も学年ごとに検討している。毎日連絡をしているケースもあれば、1週間～1か月のスパンで連絡をしたり、学校携帯のショートメールでやりとりをしたりしているケースもある。家庭によってやりとりの仕方も違う。

■不祥事ゼロプログラムについて

今年度は特に7つの課題について、職員全員で取り組んでいきたい。わいせつ・セクハラ行為の防止、体罰・不適切な指導の防止の研修の他、職場のハラスメント防止研修は、外部講師を招いて12月に実施予定。人権研修は、7月に講師を招いて性教育に焦点をあてて実施する。

【意見】

・特になし。

<司会>

「令和4年度の学校教育計画」と「令和4年度不祥事ゼロプログラム」については承諾いただいたということではよろしいか？

➡ 「了承」

【切れ目ない支援部会】

■共生社会の実現に向けた取組について

<司会>

東京オリンピックでも「共生社会」がキーワードとなって、広がっていった。「共生社会」実現への取り組みが、社会各所で進められているわけだが、「学校教育の中で何ができるか」を皆さんで考えていきたい。

<事務局>

テーマが大きいこともあり、1年かけてご意見をいただきながら部会を進めていきたいと思っている。

本日は、先ほど【学校評価部会】で報告させていただいた「地域等との協働」の観点で、学校と地域がどのように連携していけるかについて、ご意見をお願いしたい。

<委員>

以前はひなたやま地域で夏祭りをやっていた。下原公園で300人～400人集まってきた。綿あめ、シャボン玉、紙芝居やカラオケなど、8つくらいのお店を出していた。

学校もメンバーに入り、7月末に行う大きなイベントである。それがコロナでできなくなった。地域の持っているものを活性化するという意味では、祭りはつぶしてはいけないと思う。

この学校が建つときに、地域は誰も反対しなかった。地元の農家の野菜を使って、生徒たちがパンを作り、地域の方がそのパンを買いに来るなど、開校当初から、地域との結びつきがある。地域でこの学校を支えていると思っている。

以前は、通学の見守りが4人いて、子どもたちと仲良くなった。よこひな祭が終わると餅つきをやる。校庭を使用した少年野球の子どもたちが食べにくる。行事を通じて、集まって様々な人々とのコミュニケーションが図れたらよい。学校にも相談・協力をお願いしたい。

<委員>

地域防災拠点の代表をやっている。瀬谷区は横浜市立の小・中が防災拠点だが、ここは唯一県立。一緒に防災部会をやらせてもらっている。

ユネスコの提唱に、卒業しても生涯勉強とあった。教育は100年といい、ずっとつながるもの。その中で、今できることを生徒に伝えてほしい。親が教える、先生が教える、友達が教える、それぞれ違う。子供たちは知らないところで学んでいる。

公園で清掃をしているが、中学生がスケボーをやって、ごみを持ち帰らないことがある。中学校に電話をすると先生が来られるが、これは家のしつけもあるのではないか。子どもは色々な人と

	<p>の関りの中で育っていると思うが、最近、警察からは、「生徒には直接注意しないように」と言われている。教育は、努力ができる、人を大事にする、そういう子を育てることが大事だと思う。</p> <p><委員></p> <p>今話を聞いていて、大人が子どもを注意できない時代という点が心に残った。「ワンオペ育児」という言葉があるが、みんな育てられる世の中になってほしいと思っている。ごみを捨てるのは恥ずかしいと学校が教えてもいいのではと思う。</p> <p><司会></p> <p>たくさんの貴重な意見に感謝する。</p> <p><校長></p> <p>今回は10月とのことだが、コロナが落ち着いて、元に戻ってことを願う。「子どもをどうやって育てていくか」社会で育てていく、総がかりで育てていく、</p> <p>学校のあり方を考えるために、学校運営協議会があるのだと思う。今後ともご支援お願いしたい。</p>
事務連絡	第2回は10月25日(火)のAMに予定